統合3国立大学
帯広・小樽・北見

酒造りの現場 樽商大生学ぶ

帯畜大・碧雲蔵で授業

帯広畜産大構内にある上川大雪酒造（上川管内上川町）の酒蔵「碧雲蔵（へきうんぐら）」で24日、同社の川端慎治総杜氏（とうじ）(51)による授業が行われ、小樽商科大の3年生約20人が参加した。マーケティングや流通だけでなく、ものづくりの現場を学ぶのが狙い。北見工業大を含む2022年度の3国立大学連営統合に向けた象徴的な授業となった。

授業は同社と小樽商大が本年度から共同で行う「上川大雪酒造ゼミ」の取り組み。起業や経営、マーケティング、地域振興などを通年で学んでいる。今回は帯畜大の客員教授でもある川端さんが、日本酒の醸造や制度、歴史、同社の販売戦略などを教え、酒造りの現場も一緒に見学した。

川端さんは「ネットで情報を集めて分かった気分になるのは危ない。足元のマーケットについて肌感覚で知ることが重要」と強調。学生は「日本酒の需要が低迷し後継者が不足する状況をどう受け止めているか」「海外で日本酒を飲んでもらうために必要なことは何か」などと質問した。

マーケティングを学んでいる男子学生(20)は「蔵を見ながら話を直接聞ける機会は今までなかった。技術的な話もあり、どの話も印象に残った」と話した。

（小坂真希）

碧雲蔵で川端さんの講義を聴く小樽商科大の学生たち

©北海道新聞社